

『100色相環』—教育考—

山岸 政雄 金沢美術工芸大学

美術大学の学生は、入学後いち早く専門分野に触れ学びたいとの気持ちがひと際強い。

そんなメモリアルなゲートインをした学生に、色彩学演習で何をメニューとすべきかは、毎年のことながら気持ちの引き締まる思いがする。もう10数年前になろうか、折しも、日本色研の100色相環（HUE CIRCLE100）を購入できる機会を得た。すばらしいマニュアルであることは、色研の児玉先生から伺っていた。実物に接し、是非学生に模擬演習をさせたいと思い、「マンセル準拠100色相環演習」としてカリキュラムに組んだ。

色彩学演習では、第1学年において混色系と表色系を重点に制作課題としている。なかでも色相環は学生にとって馴染み易い課題である。それゆえに、マンセル100色相環のレプリカ制作は、デザイン学生には、質、量共に喜ばしいテーマとなった。ちなみに、制作条件のディテールは、白地の正方形パネルにポスターカラーを塗ったチップ（1.5cm×6cm）を直径60cmの円環状に並べて貼る。

色彩演習の目的が、その識別、弁別、補間と表色、記憶能力の開発にあるならば、この色環づくりの意義は大きいと考える。R, YR, Y, GY, G, BG, B, PB, P, RPの基本10色の間を、さらに視覚等差分割する自助努力の効果と結ばれるからである。

学生たちは100色相を選ぶために、400色から500色のカラーチップを各人がつくっている。その過程で、明るい色域の分割は、暗い色域の分割以上に難しいことなど、感覚と知覚に関わるいくつもの学習をしている。あるいはまた、これを機会に、色環のアイデアルな歴史に興味を持つ学生もいる。Newton, Harris, Goethe's, Chevreul, Hering, Ostwald, Munsell, Birrenと続く色環研究の歴史に魅せられ、ロマンさえ感じているようだ。

色彩世界が、自然とそこに生きる人間、文化の繋ぎ情報であることを再考する、HUE CIRCLE 100の授業である。

エッセイ投稿応募のお願い

色彩をテーマにした短いエッセイを会員の皆様から募集し、学会誌に掲載させていただきますので、日頃考えておられること、感じられたことなどをまとめてご投稿下さい。本号の7編のエッセイのような形で掲載致します。参考にして下さい。

- 原稿行数 24字35行以下（840字）
（写真や図が入る時は減らして下さい。）
- 原稿締切 随時
- 原稿料 無料
- 掲載の採否 編集委員会にご一任下さい。
- テーマ例
 - ① 学会（色彩学）は如何に社会に貢献できるか。
 - ② 感動した〈色〉。
 - ③ 「色彩」という言葉から思うこと。
 - ④ 現在取組んでおられる色彩研究について。
 - ⑤ 色彩学会への提言。
 - ⑥ 色彩学の未来像は。
 - ⑦ 海外の色彩研究のトピックス。
 - ⑧ 色彩学者との交流の想い出。
 - ⑨ 会勢拡大のアドバイス。
 - ⑩ その他「色彩」を軸とする日常的で自由なテーマで。
- その他
タイトルおよび氏名は英文を併記して下さい。目次に使います。
- 送付先
〒103 東京都中央区日本橋馬喰町1-7-6
カラープランニングセンター
永田 泰弘 宛
TEL 03-3662-4188
FAX 03-3664-8072

学会誌・ニュース編集委員会